

出 題 意 図

選 抜 区 分 ： 社会人選抜
科 目 名 ： 小論文
学部学科等 ： 法学部 法学科

SDGsにおける17の目標

10 人や国の不平等をなくそう

第1問の出典は、法学部生や法科大学院生だけではなく、法律に興味のある社会人や専門家も対象読者として日本評論社が発行している『法学セミナー』という法律系雑誌である。抜粋箇所は、本誌845号が掲載した「『世論』と法」という特集において綿村英一郎大阪大学教授が執筆した「AI裁判官の可能性と課題——“感情”を持たない裁判官は世論を引き受けられるのか」という論文である。これは、AI技術の革新によってAIが裁判を担うことも不可能では無くなりつつある現代において、感情を持つ私たち人間が構成する社会はAI裁判官を受け入れることができるのかという論点について、法心理学の視点から検討するものである。

問1は、受験生の読解力と記述力を測るものである。筆者が述べるAI裁判官の特徴を本文から正確に読み取り、指定された文字数以内で簡潔にまとめることができるのかを確認する問題となっている。

問2は、問われている内容、すなわち、「私たち人間社会はAI裁判官を受け入れるべきか」を問われているのではなく、「受け入れることができるのか」を問われていることを正確に理解し、本文を参考にしながらその問いに対する答えを指定された文字数以内で簡潔かつ論理的に述べることができるかを確認する問題となっている。

出 題 意 図

選 抜 区 分 : 社会人選抜
科 目 名 : 小論文
学部学科等 : 法学部 法学科

SDGsにおける17の目標

16. 平和と公正をすべての人に

問題 2

出典は、冷戦後の国際社会において、9.11事件後の国際情勢の変化を契機として、自由主義がなぜ支持を失いつつあるのかを考察する現代的なトピックを取り扱った学術書である。抜粋箇所は、アメリカが戦後、冷戦時代を通して育んできた、いわゆるリベラル国際秩序の形成に関わる自国のもっとも深い文化的伝統と調和しない政治的見解をなぜ受け入れることになったのかという問題について、イラク占領や対テロ戦争をめぐる政治動向を大きな契機として、世論がドナルド・トランプによる従前のそれとは大きく異なる修正主義的主張に共感する過程と関連づけて検討するものである。

問1は、受験生の読解力を測るものであり、戦後のリベラル国際秩序を前提としたアメリカの「模範としての影響力」の意味についての理解度を問い、その上で、どうして同国がそうした影響力の多くを失うことになってしまったのか、その主要な理由について、受験生がどの程度適格に文中から読み取ることができるのか、確認する問題となっている。

問2は、抜粋箇所の文意を受けて、これまで肯定的な文脈で捉えられてきた「開かれた社会」がなぜ脅威と考えられるようになったのか、また、そのような理解を通して、現在のアメリカにおける移民や難民の受け入れをはじめとする外国人政策が実際にどのような方向で進められるようになったのかということについて、受験生の一般的な社会知識や論理的思考を具体的な形で確認する問題となっている。